

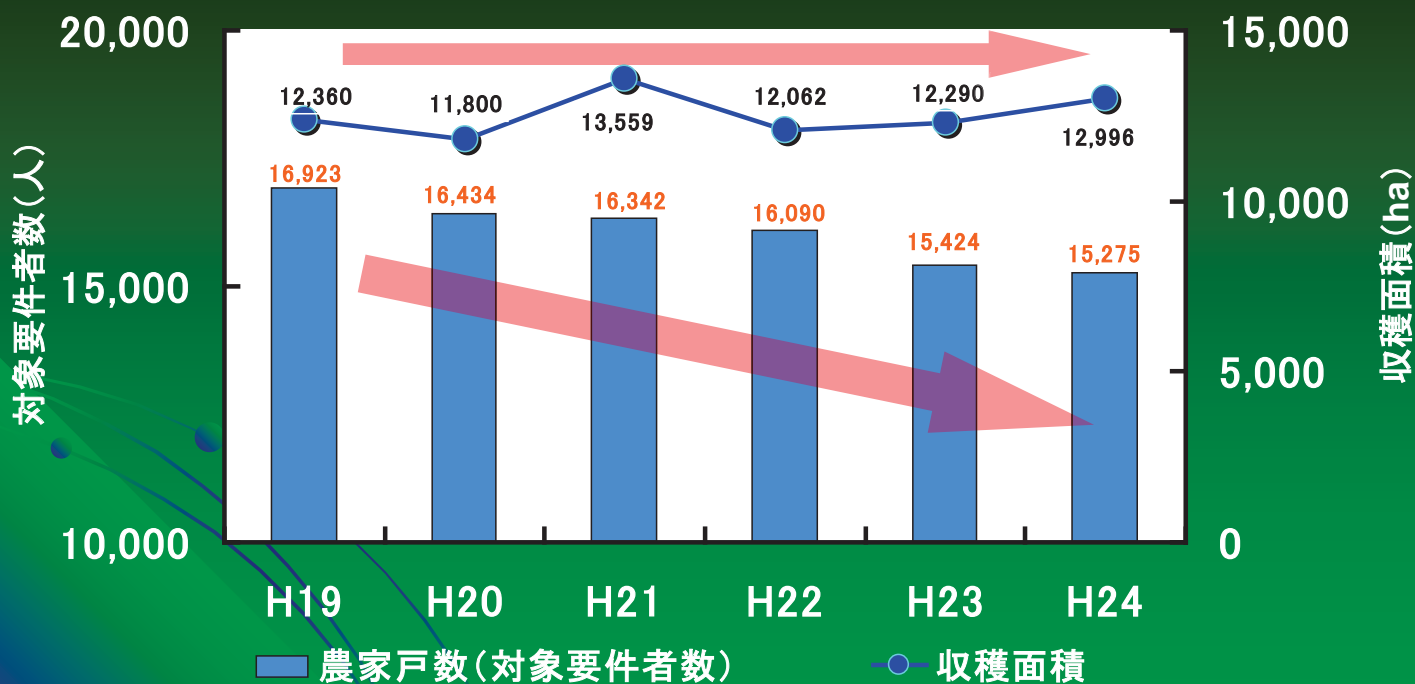
沖縄県における担い手育成に向けた取組

沖縄県農林水産部糖業農産課

平成25年10月17日

1 さとうきび生産と担い手の現状

さとうきびは、沖縄県の基幹作物として、県内ほぼ全域で生産されており、全農家数の約75%、耕地面積の約50%を占める

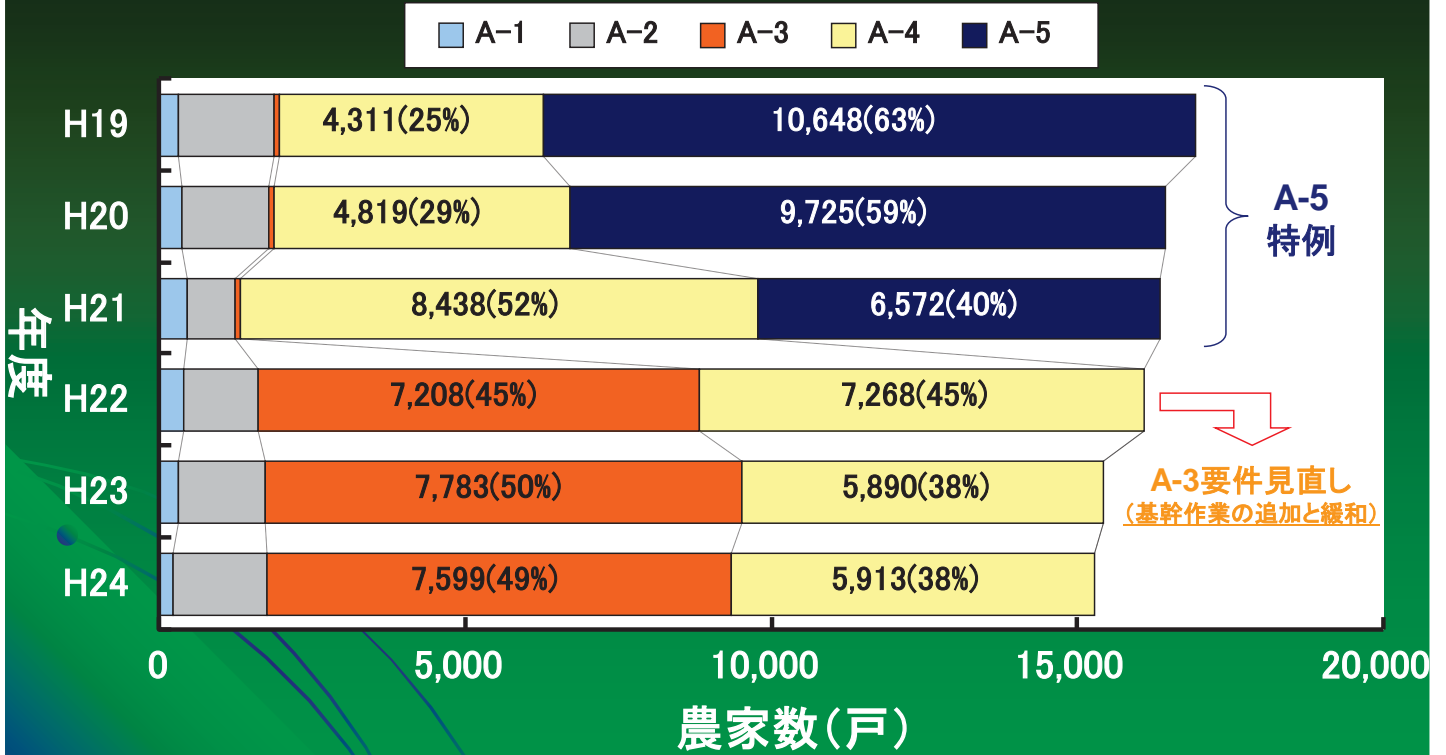


農家戸数⇒減少

収穫面積⇒維持

2. さとうきび担い手の現状

① H19~24年度 要件充足状況(県全体)



平成19年度
A-5(約60%)

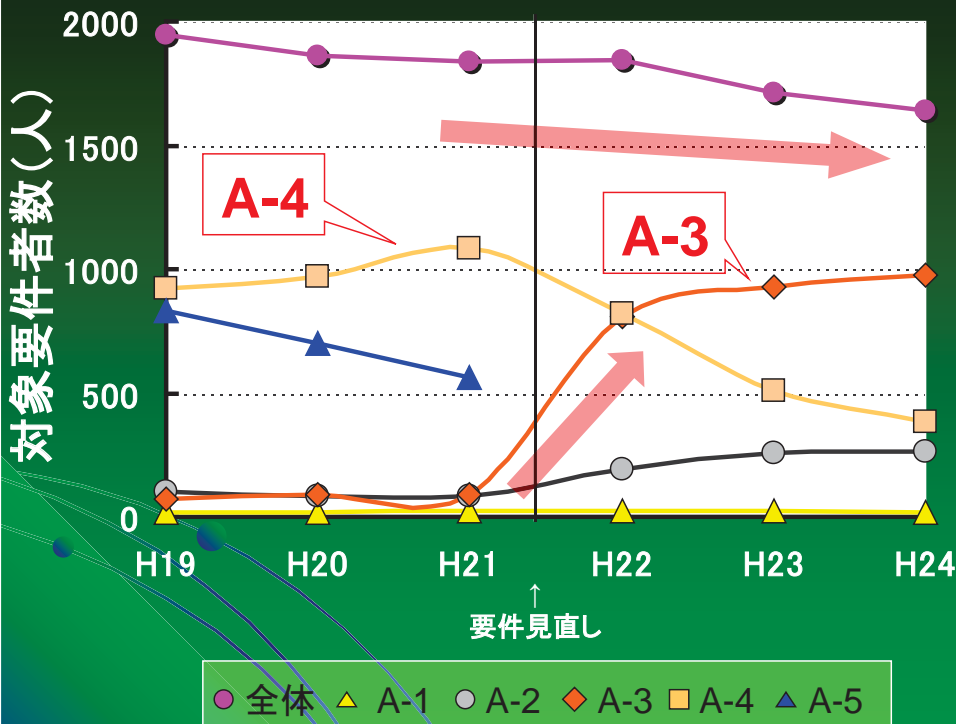


平成20年度~
A-4(基幹作業の委託)へ誘導



平成22年度~
要件見直しにより、A-3拡大

2-1. さとうきび担い手の現状(沖縄本島北部)



Point !

共同防除に限って
ヤソ剤の色を変更
(共同防除の取組強化)



効果的なヤソ防除を目的に
袋を緑にしたヤソ剤(カラス被害軽減)

ヤソ(クマネズミ)

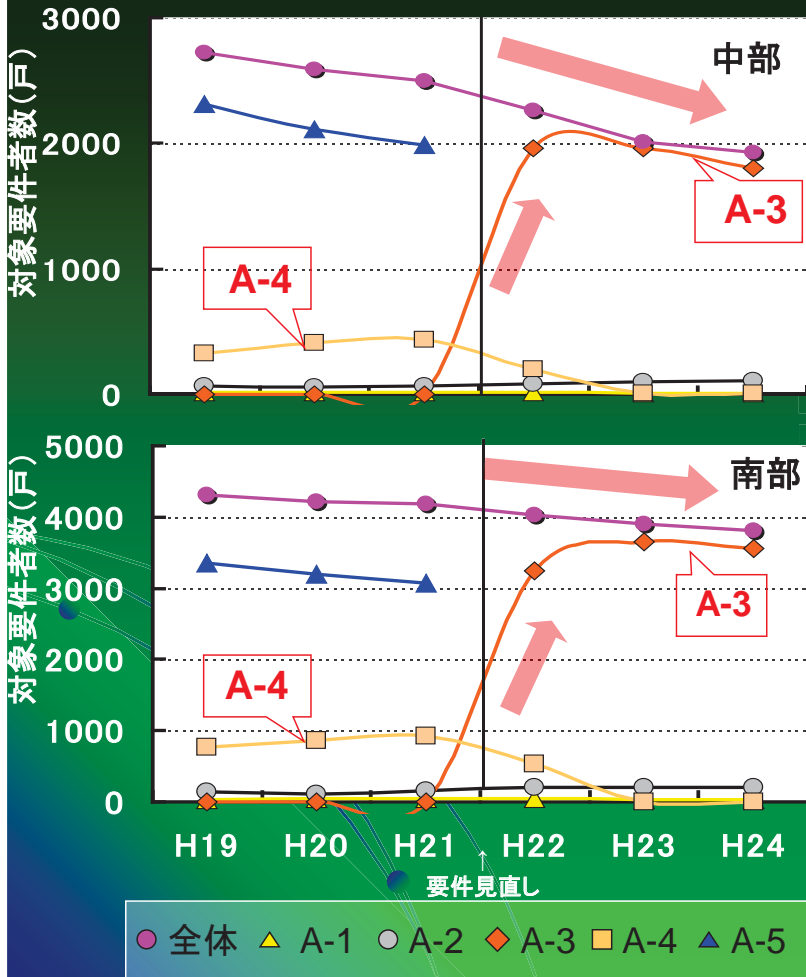


- 担い手の維持
- A-3防除の拡大
- A-4受委託の維持

- ・ 機械収穫が推進(収穫面積の約70%)
- ・ 病害虫(イネヨトウ等)及び鳥獣被害が多い(イノシシ、ヤソ等)
- ・ 農家数はやや減少傾向

課題

2-2. さとうきび担い手の現状（沖縄本島中南部）



- ・経営規模が比較的小さい
- ・機械化が困難
- ・農家数減
- ・A-3防除に取り組む

Point !



OCR調査とヤソ剤配布、農業適性使用について説明

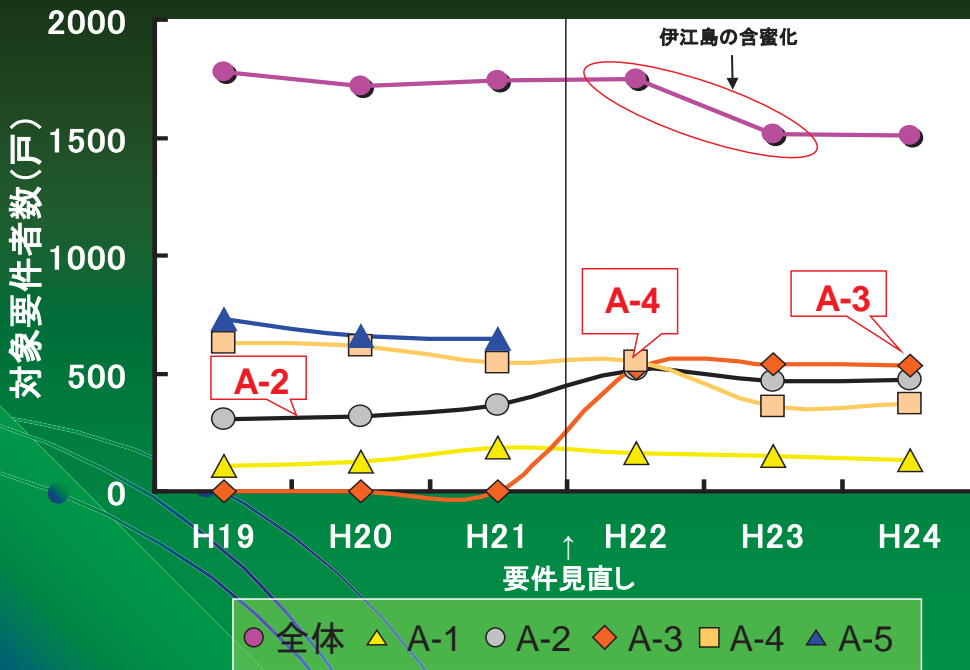


交信かく乱法によるイネヨトウの共同防除に向けた実証試験

- 課題
- 担い手の確保
 - A-3 防除の拡大
 - 防除体制の強化

2-3. さとうきび担い手の現状（沖縄本島周辺離島）

伊江島・伊是名島・南北大東島・久米島



Point !

離島の特質を活かした大規模経営
作業受委託の維持

一部地域では防除の取組が拡大



収穫作業の受委託

- 課題
- 担い手の維持
 - A-2大規模経営の安定 (久米島が主)
 - A-4受委託の安定 (H23の減は、伊江村の含蜜化による)
 - A-3防除の拡大 (久米島のみ)

南北大東島:大規模経営、機械収穫体系が安定⇒A-1,A-4主体
久米島:生産法人の育成、受委託の推進⇒A-3主体
伊是名島:共同防除体制の推進⇒A-2,A-4主体

3 これまでの取組 (対象要件の見直しについて)

組織づくりの取組

<H21年度>

- 1月18～20日 国主催による対象者要件見直し説明会
- 1月26日 地区推進説明会
- 2月2日 生産組合長を対象とした説明会
- 2月 生産組合役員等を対象とした説明会
- 3月 生産組合の再編(規約追加など臨時総会)



<H22年度>

- 4月中旬～6月 防除計画に基づく病害虫(ガイダーなど)防除
- 6月 防除作業推進に関する調整会議
- 9月～12月
 - ・野そ防除に関する周知・啓発活動(個別説明、チラシ配布、郵送)
 - ・生産組合での野そ防除に関する説明・講習会等
 - ・農薬受取から防除確認までの進捗管理の徹底
 - ・防除推進員や担い手推進、経営安定補助員による、未実施者への喚起



<H23年度～>

- 4月中旬～6月 防除計画に基づく病害虫(ガイダーなど)防除
- 7月 農薬の適正使用に関する周知・啓発
- 9月～12月
 - ・野そ防除に関する周知・啓発活動(個別説明、チラシ配布、郵送)
 - ・生産組合での野そ防除に関する説明・講習会等



効率的な防除技術の開発

4 効率的で効果的な防除技術の開発

沖縄県における経営安定対策は、生産組織における防除を重要視

イネヨトウ



幼虫



成虫

(幼虫が茎を加害)



被害ほ場



フェロモンディスペンサー

シロスジオサゾウムシ



幼虫

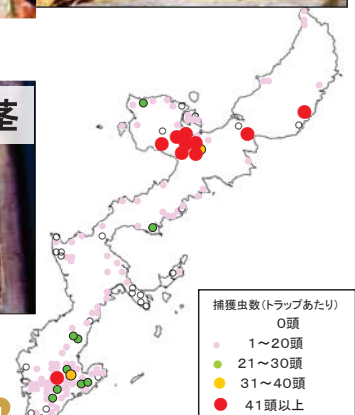


成虫

(幼虫が茎を加害)



被害茎



捕獲虫数(トラップあたり)
 0頭
 1～20頭
 21～30頭
 31～40頭
 41頭以上

沖縄本島における密度分布調査

現在、試験研究機関において技術開発を進めている

一括交付金を活用し、各地域において交信かく乱法による防除技術の普及を図る(H24～)

ここまでのまとめ

- 要件の見直しに伴い、関係機関が連携し、防除を行う生産組合の体制づくりに取り組んだ
- 特例農家(A-5)の大部分はA-3防除に移行した

北部	A3 の拡大	担い手維持
中・南部	A3 の拡大	担い手減少
本島離島	A2、A4の安定	A-3 の拡大 担い手維持
宮古	A4による安定	担い手の維持
八重山	A3 の拡大	担い手の維持

地区の状況に応じて、A-3の共同防除を効率的に行う手法を検討し、取り組んでいる

- 低コストで効果的な防除技術の開発を進める(交信かく乱法等)

課題: 中・南部では農家数の減少傾向が見られる
(県全体としても対象要件者数は減少)

担い手の確保及び育成に取り組む

4. 担い手育成の方向性

生産性の向上・安定生産に向けて、機械化・受委託の推進を支援

適正かつ効果的な防除体系の確立支援

H21~H22

- 受託体制構築マニュアルの作成



H23

- 受委託の受け皿となる法人の育成
→「さとうきび生産法人成長戦略サポート事業」

H24

- さとうきび増産基金の効果的な運用を支援
→「さとうきび増産体制サポート事業」

緊急雇用基金を活用して、生産体質強化を支援



H21~H22

- 生産組合の育成支援
- チラシ等による啓発



啓発用チラシ

H23~

- 地区ごとの生産条件に対応した取組みが始まっている
- 効果的な防除技術開発(農研センター)



ご静聴ありがとうございました

2011/9/9